



2024年10月31日

各位

会社名 ハリマ化成グループ株式会社
代表者名 代表取締役社長 長谷川 吉弘
(コード番号 4410 東証プライム)
問合せ先 上席執行役員
 経理・財務グループ長 上辻 清隆
(TEL. 06-6201-2461)

第2四半期(中間期)連結累計期間業績予想と実績との差異および

通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2024年4月30日に公表しました2025年3月期第2四半期(中間期)連結累計期間(2024年4月1日～2024年9月30日)の業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、また、最近の業績の動向等を踏まえ、2025年3月期の通期(2024年4月1日～2025年3月31日)の連結業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

I. 業績予想値と決算における実績値との差異について

2025年3月期第2四半期(中間期)連結累計期間業績予想と実績の差異(2024年4月1日～2024年9月30日)
(単位:百万円, %)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 中間純利益 | 1株当たり 中間 純利益 |
|---|--------|-------|-------|-------------------------|--------------------|
| 前回発表予想(A) | 49,300 | 680 | 680 | 470 | 19.39円 |
| 今回発表実績(B) | 49,140 | 1,252 | 1,117 | 595 | 24.56円 |
| 増減額(B-A) | △160 | 572 | 437 | 125 | — |
| 増減率(%) | △0.3 | 84.1 | 64.3 | 26.6 | — |
| (ご参考) 前期第2四半期(中間期)実績 (2024年3月期第2四半期(中間期)) | 45,272 | △607 | △304 | △406 | △16.79円 |

II. 差異が生じた理由

当中間連結会計期間の業績は、電子材料事業では、半導体市場の回復により半導体用機能性樹脂が好調に推移し、売上高は増加しました。ローター事業は、欧米での粘接着剤用樹脂の需要回復、北米での路面用標示塗料用樹脂が堅調でしたが、樹脂・化成品事業では、建築外装用の塗料用樹脂の売上高が減少、製紙用薬品事業では、紙力増強剤が国内需要の減少により売上高は減少しました。全体として売上高は、前回の予想並みとなりました。

営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益につきまして、売上高減少ではありましたが、経費削減、生産体制の見直しによる効率化により前回の予想を上回りました。

Ⅲ. 業績予想の修正

2025年3月期通期連結業績予想数値の修正（2024年4月1日～2025年3月31日）

（単位：百万円，％）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-------------------------|---------|-------|-------|-------------------------|----------------|
| 前回発表予想（A） | 102,000 | 2,100 | 2,100 | 1,450 | 59.83円 |
| 今回修正予想（B） | 102,000 | 3,000 | 2,500 | 1,550 | 63.88円 |
| 増減額（B－A） | － | 900 | 400 | 100 | － |
| 増減率（％） | － | 42.9 | 19.0 | 6.9 | － |
| （ご参考） 前期実績（2024年3月期） | 92,330 | △211 | △275 | △1,161 | △47.96円 |

Ⅳ. 修正の理由

売上高は、中間連結会計期間同様、前回の予想並みで推移する見込みですが、営業利益につきましては、経費削減、生産体制の見直しによる効率化により前回の予想を上回る見込みとなりました。

また、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、営業利益の増加に伴い、前回の予想を上回る見込みとなりました。

※上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上